

研究室配属レポート

91140

まず今回の研究室配属に当たり、配属前から迷惑をかけてしまった。その時に指導を受けたように、自分で決め込まずに常に最悪のケースを想定して行動するように心がけていきたい。

今回の研究室配属では、具体的な知識の習得や実験技術の習得はもちろんだが、それ以上に自分で考える、という力を一番習得できたのではないかと思う。配属が始まる前は、この期間中は恐らく軽く説明を受けて実験に大半の時間を費やすのだろうな、と想定していた。しかし、実際に配属が始まると説明時間と実験時間が大体半分ずつ、といったところであった。それは説明の最中、常に先生から問いを投げ掛けられるからであり、その問いに答えられず過ぎていった時間が大半であったからのように思う。正直、問いを投げ掛けられた瞬間は非常に苦しかった。焦りに焦って必死に頭を回転させても答えが出てこず、黙りこくってしまった。友達のフォローのお陰でなんとか乗り切っているようなものだった。友達には足を引っ張ってしまい申し訳ないと思っている。しかし、この「自分で本気で考える時間」というのは、自分ではなかなか作り出せない時間であり、なかなか経験できない貴重なものであったと思う。特に大学の講義では、先生からの問いが来ることも滅多にないので、どうしても集中力を欠いてしまいがちだった。しかし、今回の配属期間で、説明をしっかりと聞き、その場で理解し学習する、という基本的なことを再確認できたと思う。今までの実験では、意味も理解せずにただ言われたように作業をこなす、という感じで思い返してみると意味のない時間を過ごしてしまっていたように思う。しかし今回の経験を基に、今後は一つ一つの工程について自分で考察を深めながら出来るようにしたい。ただそんな中でも、実験手法について分からないことがあればきちんと聞く、仲間と相談することもまた大事なことで教わった。特に医療現場では、自分の勝手な単独行動は許されない。分からないのに突き進んでしまうと本当に取り返しのつかないことになりかねない。このように将来の自分の職場での姿を想定した話をしていただいたおかげで、物凄く実感があつたし、その行動に対しての恐怖を感じた。このような当たり前だが、忘れがちであることを再確認することが出来た。

実際の実験としては、初めてやることも多く、思うようにいかないことが多々あった。これまでにやったことのあるはずの作業でも、一人でやるとなると上手くいかなかった。自分が今までどれだけ周りに頼ってきたかを思い知らされた。しかし今回の配属で、自分から率先してやれるだけの技術、自身が身についたように思う。今後はむしろ自分が積極的に取り組んで引っ張っていくくらいの意識で取り組んでいきたい。実験の手際は自分ではもともと悪くなかったと思う。ただ、凡ミス結構やってしまいがちなので今回の配属中は簡単なミスをしないようにと心掛けていた。最後の最後にバンドが重なって実験に失敗してしまい、結果を得られなかったのは悔しかった。それでも実験は成功させることだけが目的ではなく、失敗したら失敗したでどこに問題があったのか考慮して次に繋げることも大事であると学ぶことが出来た。

今回の研究室配属では、自分の意識を大きく変えられたことが一番の収穫になったと思う。幾度となく迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。しかし、お陰様で自分のスキルアップにつなげることが出来たと思います。本当にお世話になりました。4週間ありがとうございました。